

平成24年度 第2回心理学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

日 時：平成24年7月31日（火）午後5時から午後8時まで

場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

出席者：木村委員長，金子委員，大島委員（午後6時に退席），中澤委員（午後7時に退席），今井委員（午後7時30分に退席）

（事務局）井端事務局長，森下主幹，松本職員

1. 学士力実現に求められる授業改善モデルの検討

(1) 教育改善モデルに求められる教育力

(a) 全体的な方針の確認

教育改善モデルに求められる教育力の検討にあたり，事務局より，「心理学教育における教育改善モデル（その1）」（資料②.1）「同（その2）」（資料②.2）に特化した「心理学教員の教育力」を，他分野で検討された教育力（資料・参考3）を参考にしつつ，ひとつのモデルにつき3個から4個（最大7個）程度，合計6個から10個程度をリストアップするという方針が確認された。

(b) モデル（その1）（資料②.1）の検討

- ・ まず，他の分野と共通する教育力として，「現場との協働」「教育方法の開発・改善」「他の教員や他の分野との連携」「学生の主体的な取り組みを促進する力」「カリキュラムの全体像の位置づけ」などといった点が指摘された。
- ・ 「教員間でのシラバスの調整」についても議論されたが，授業内容の重複にも積極的な意義がある等の意見が出され，今回はそこまで踏み込まずに，「カリキュラムポリシー」として記述することとなった。
- ・ 物理学の教育力を参考に「基礎」について議論されたが，心理学では「基礎」の位置づけが物理学と異なり，かえって混乱を招くのではとの意見も表明されたので，「基礎」については言及しないことになった。
- ・ その他の論点として，他分野との連携や協働，心理学の知識を社会生活と関連付けて理解させられること，集団やグループの特性を活かした授業運営の能力，学修成果のポートフォリオから問題点を引き出して授業改善に取り組む姿勢，等々が指摘され，それぞれ教育力として盛り込まれた。

(c) モデル（その2）（資料②. 2）の検討

- ・ “ファシリテータ”を活かした教育力の必要性が指摘されたが、心理学の場合には“ファシリテータ”という名称が必ずしも一般的ではないので、TA（上級生や大学院生等）や他大学の教員や社会人などを想定した内容とすることとなった。
- ・ モデル（その2）には、データ収集や統計解析、モデル化が含まれているので、これらに関連した教育力が必要であると指摘された。
- ・ モデル（その2）には「社会への発信」も含まれているので、これに関連した教育力の必要性が指摘された。そこで、ICTを活用できる教育力という形でこれを盛り込むこととなった。
- ・ 以上の議論を踏まえ、モデル（その1）とモデル（その2）から得られた教育力を統合・整理して、心理学として8項目の教育力を提案することとなった。

(2) 教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題

(a) FD活動

- ・ 「教育力を実現するためのFD活動」についても、他分野を参考にしつつ、教育力の1から8に対応するような形で、心理学の観点から必要なFD活動をリストアップすることとなった。また、ここでいうFD活動とは、具体的な教育内容に関わるものではなく、あくまで教育方法や授業マネジメントに関するものであることが確認された。
- ・ それを踏まえ、必要なFD活動として、カリキュラムの全体像やその中での各授業の位置づけの確認・点検、到達目標を点検・評価するための仕組みの整備、指導法についてのワークショップの組織化、教育方法の研究報告会の開催、などがあげられた。
- ・ また、心理学については、他分野との学際性よりも、むしろ心理学の応用に関する検証が必要なのではないかとの意見が出された。
- ・ また、教育力の7と8は、FD活動というよりも大学として取り組むべき課題であると考えられるので、次の「大学としての課題」の中に盛り込むこととなった。
以上を踏まえ、表現などを調整しながら、教育力を実現するためのFD活動として5項目にまとめられた。

(b) 大学としての課題

- ・ FD活動に関する議論の中で指摘されたICTに関する環境整備は、大学が取り組むべき課題であるとして、ここに盛り込まれることとなった。
- ・ 学内外の連携については、制度的な整備と財政的な支援が必要であると指摘された。

- ・ また、授業や教材等を相互で活用するために、アーカイブ化して共有できるようなプラットフォームの整備が必要であるとされた。
以上を踏まえ、大学としての課題として3項目にまとめられた。

2. 今後の予定

- (a) 「心理学教育における学士力の考察」の背景解説を分担執筆することとなった。「法学教育における学士力の考察」（資料・参考5）を参考に、全体の背景解説（A4サイズ三分の二ページ以内）、到達目標1～3の解説（5～6行程度）を各委員で担当することとなった。締め切りは8月21日（火）とし、委員会のメーリング・リストに投稿することとする。
- (b) 次回の委員会を、8月24日（金）午前10時から午前12時まで、私立大学情報教育協会会議室で開催することとなった。検討事項は、学士力の到達目標（到達目標設定の背景解説含む）の予定である。